

平成24年新年賀詞交歓会に750名が参加

平成24年1月6日、ホテルオークラ東京・平安の間において、「平成24年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交歓会」が開催され、経済産業省、関連団体、報道関係者及びJISA会員等、約750名が参加した。



■会長挨拶

最初に、浜口友一会長が新年の挨拶として「当業界の今年が一番の仕事は、昨年の震災の復興事業に貢献することであり、ITを活用したモデルになるようなプロジェクトをやっていききたい。また、BCPの体制ももう一度きちんと点検していく必要がある。一方、グローバルな環境変化に当業界も迅速に対応できるよう構造改革しなくてはならない。クラウドについては今年ようやく本格的なものが出てくるのではないか。また、インターネット社会の負の側面への対応としてサイバーセキュリティが重要となる。皆様のご支援・ご指導でなんとかこの乱世の年を乗り切っていきたい」旨述べた。

会長挨拶：<http://www.jisa.or.jp/news/821/download/101.pdf>

■来賓挨拶

次に来賓としてお越しいただいた永塚誠一経済産業省商務情報政策局長から「昨年は東日本大震災に見舞われ、日本にとって忘れられない一年であった。この災害で被災した皆様方には心からお見舞いを申し上げますとともに、復旧・復興ひいては日本再生に向けて邁進していく所存である。一方で新しいことにもチャレンジしていかななくてはならない。今年は多くの国で選挙が予定されており、国際政治の面で大きな変化がある。その中で日本経済は、円高、エネルギー問題、空洞化、国内雇用の喪失の危機など多くの課題を抱えている。日本政府としては補正予算で復旧・復興や国内経済対策を行っていく。とはいえ、守りの空洞化対策だけでは、日本経済の再生を図ることはおぼつかない。ITの利活用による新しい産業の創出やセキュリティの確保に向けた施策を行っていく。皆様方のご支援・ご協力をいただきたい」旨の挨拶があった。

■新表彰制度「JISA Awards 2012」表彰式

最初に選考委員会委員長の坂村健東京大学教授から「残念ながらITの利活用では日本は世界のトップ10にも入らないと言われている。また、大学における学生の人気も一昔前とは違ってコンピュータ産業が一番というわけではない。しかし、我が国のコンピュータ産業はハード・ソフトとも重要なインフラを支えている。これは、少しアピールが足りないのではないか、もっと積極的に業界から世界に打って出るようなアピールをした方がいいのではないかということで、このアワードが設けられたと聞いている。こういう賞があるのは非常に良いことだと思う。選考委員会の5人の委員が厳正に審査し、この賞にふさわしい案件を選ぶことに全力を尽くした。この賞は「独創性」「国際通用性」がポイントだが、なかなか難しい。今後、回を重ねていくうちに、会員の皆さんが「独創性」「国際通用性」ということを認識し、どんどん賞のレベルも上がっていくのではないか」旨講評があった。その後、受賞者としてSCSK株式会社（受賞システム：PrimeCloudController）及び株式会社NTTデータ（受賞システム：Global One Team）が浜口会長より表彰を受けた。

プレスリリース：<http://www.jisa.or.jp/pressrelease/20120106.html>

■平成23年秋の褒章受章者紹介

平成23年秋の褒章において、関隆明氏（元JISA副会長、元NECソフト代表取締役社長）及び池田典義氏（元JISA常任理事、アイネット 代表取締役会長）が藍綬褒章を受章された旨紹介された。

■乾杯

藤江一正独立行政法人情報処理推進機構理事長から「最近の水と空気とITというくらいITが非常に大事な要素であり、皆様の事業推進の源ということになってきた。われわれも皆さんの要求をいかにしっかりと受け止め、PDCA(Plan-Do-Check-Act)を回して、事業に生かしていきたい。これまで2回、秋に行ったアンケートで、われわれの事業や成果物を一番利活用しているのはJISAさんだということを改めて認識した。今後も是非ご活用いただきたい」旨の挨拶があり、引き続き乾杯の発声となった。

(田畑)